

過去に発生した食中毒等事例

種 類	原 因	被害状況	発生年度	概 要	その他
食中毒	腸管出血性 大腸菌O157	患者数9,523名 (うち死者3名)	平成8年	平成8年6月以来岡山県をはじめとして、東京都、愛知県、福岡県、岐阜県等各地で病原大腸菌O157による食中毒事件が頻発するなか、同年7月大阪府堺市の小学校で感染者9千人を超える集団食中毒事件となった。	・堺市学童集団下痢症事件 病原大腸菌0-157対策関係閣僚会議を開催
毒物混入 事件	砒素化合物	被害者数67名 (うち死者4名)	平成10年	和歌山県和歌山市園部地区で催された夏祭りにおいてカレー等の炊き出しが行われ、喫食直後より吐き気や痙攣等の食中毒症状を訴えるものが相次いだ。 原因は当初、集団食中毒とみられたが、次いで青酸化合物が疑われ、最終的に砒素化合物の亜ヒ酸が検出された。	・和歌山毒物混入カレー事件 和歌山で発生した毒物混入カレー事件に端を発し、以降、毒劇物等を使用した犯罪が相次いで発生し、国民に多大な不安と社会に重大な脅威を与えたことから政府として劇毒物対策会議を開催し、毒劇物の管理体制の強化、流通食品における安全確保対策の推進等について報告書が取りまとめられた。